

令和2年2月教育委員会定例会 会議録

令和2年(2020)2月21日(金)午後2時、出雲市教育委員会定例会を市民応接室に招集した。

1 会議に出席した委員

教 育 長	榎 野 信 幸
教育委員(教育長職務代理)	小 豆 澤 貴 洋
教 育 委 員	水 陽 子
教 育 委 員	錦 田 剛 志
教 育 委 員	金 築 千 晴

2 説明のため会議に出席した者

教 育 部 長	植 田 義 久
教育部次長(教育政策課長)	建 部 敏 紀
市民文化部次長(文化財課長)	木 村 亨
学 校 教 育 課 長	金 築 健 志
児 童 生 徒 支 援 課 長	兒 玉 浩 二
教 育 施 設 課 長	園 山 裕 二
学 校 給 食 課 長	金 森 真 治
出 雲 科 学 館 長	矢 田 浩 一
学 校 教 育 課 主 査	山 崎 創
児 童 生 徒 支 援 課 課 長 補 佐	渡 部 俊 樹

3 会議の書記

教 育 政 策 課 課 長 補 佐	常 松 晃 好
-------------------	---------

4 傍聴者

2人

開会

(槇野教育長) 只今から、令和2年2月出雲市教育委員会定例会を開会します。
本日の会議は、お手元に配付しております日程のとおり行います。

1 教育長行政報告

(槇野教育長) それでは、教育長行政報告を行います。(以下、報告項目のみ掲載)

(1) 前回以降の動向

R2.1.29	科学館 DVD 贈呈式
R2.1.30	管内教育長会
R2.2.3	県いじめ問題対策協議会
R2.2.4	科学館運営理事会
R2.2.5	小中連携推進委員会
R2.2.6	いじめ問題対策委員会
R2.2.6	医師会との意見交換会
R2.2.7	出雲農業創生会議
R2.2.7	保幼小連携推進委員会
R2.2.12	校長の会議
R2.2.13	管内教育長会
R2.2.18	市議会初日 ~3.19
R2.2.19	国富小・西田小・鰐淵小・北浜小再編統合推進委員会
R2.2.20	市議会施政方針質問
R2.2.21	定例教育委員の会議

(2) 今後の予定

R2.2.27	一般質問 ~3.3
R2.3.1	くにびきマラソン大会
R2.3.5	出雲地区雇用推進協議会
R2.3.6	校長の会議
R2.3.9	市議会文教厚生常任委員会・予算特別委員会分科会
R2.3.19	市議会最終日
R2.3.24	出東幼稚園閉園式
R2.3.24	定例教育委員の会議

(3) 施政方針質問

No.	議員氏名	質問要旨
1	伊藤繁満	①「多文化共生プラン」の推進により、どこに住んでいても安心できる共生社会の実現を目指すとされている。実態の中から重点として取り組むことは何か。

		②不登校・いじめ等への対策や特別支援教育については、きめ細かな支援が行われ、児童生徒の人間関係づくりや自尊感情の育成を目的とした取り組みが拡大されることになっている。近年の状況を見るといじめの件数は増加し、低年齢化しているが、児童生徒に個々に向き合う体制はどのようにとられているのか。
2	保科孝充	日本語指導が必要な児童生徒への現在の対応状況と今後の計画について。
3	本田一勇	①外国にルーツがある子どもたちが、多様な進路選択ができるように関係機関と連携して取り組むとしているが、具体的にどんな関係機関か。 ②外国籍の子どもで不登校の子はどのくらいいるのか。また原因がわかれば伺う。 ③給食費の公会計化とは、具体的にどんなことか。
4	福島孝雄	社会教育計画の目的と実効性を伺う。

(槇野教育長) 只今の報告で、質問等がありますか。

(小豆澤委員) 2月7日に行われた「出雲農業創生会議」に教育長が出席されるような場合には、どういう観点の議論になるのでしょうか。

(槇野教育長) 市長をトップに、私もメンバーの一人ですが、ほかに、畜産も含めた県の農政関係とか、JA 関係とか、市の農業サイドなど、そういったところがメンバーです。出雲農林高校が主体となった3か年の事業で、「若者に魅力のある農業」といったような視点で、この1年間行われてきた取組の発表などを聞かせていただき、意見交換もしたところです。それぞれの立場で感想や評価を述べるということでありました。

(錦田委員) 教員の逮捕の件について、今後の処分の見通しと伺いますか流れというのはどのようになるのですか。

(槇野教育長) 今後、県において手順を踏んで処分の決定をされると思います。詳細の日程については、私どもでは把握しておりません。

(錦田委員) わかりました。

(槇野教育長) ほかは、いかがでしょうか。

(各教育委員) ありません。

2 会議録の承認

(槇野教育長) 次に、会議録の承認に入ります。前回1月定例会の会議録について、何か意見等がありますでしょうか。

(各教育委員) ありません。

(槇野教育長) 特に意見等ありませんので、1月定例会の会議録については、承認します。

3 議事

(槇野教育長) それでは、議事に入ります。「議第38号 出雲市立学校における地域学校運営理事会理事の辞任及び任命について」を、教育部 建部次長 に説明をお願いします。

(建部次長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の、議第38号について、何か質疑等はありませんか。

(各教育委員) ありません。

(槇野教育長) 特に質疑等がないようですので、議第38号について、承認してよろしいですか。

(各教育委員) 異議なし。

(槇野教育長) ご異議ありませんので、議第38号を承認します。

(槇野教育長) 次に、「議第39号 出雲市食物アレルギー対応給食判定委員会委員の交代について」を、学校給食課 金森課長 に説明願います。

(金森課長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の、議第39号について、何か質疑等はありませんか。私からひとつよろしいでしょうか。この判定委員会で、「対応をとらなくてもよい」というような

結論が出る場合がありますか。

(金森課長) 本判定委員会委員のどなたかに事前に診ていただいているなどで、先生の指示書がある中で判定委員会に臨みますので、それが否決されることは、今までには経験したことはありません。

(槇野教育長) この判定委員会では、給食においてアレルギー対応できる範囲で判定していくということでしょうか。全く給食で対応できないものはここには出てこないということでしょうか。

(金森課長) そういうことですね。

(槇野教育長) わかりました。ほかは、いかがでしょうか。

(各教育委員) ありません。

(槇野教育長) 特に質疑等がないようですので、議第39号について、承認してよろしいですか。

(各教育委員) 異議なし。

(槇野教育長) ご異議ありませんので、議第39号を承認します。

(槇野教育長) 次に、「議第40号 出雲市指定文化財の指定及び指定解除について」を、市民文化部 木村次長 に説明願います。

(木村次長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の、議第40号について、何か質疑等はありませんか。

(各教育委員) ありません。

(槇野教育長) 特に質疑等がないようですので、議第40号について、承認してよろしいですか。

(各教育委員) 異議なし。

(槇野教育長) ご異議ありませんので、議第40号を承認します。

4 報告

(槇野教育長) 次に、報告事項に入ります。はじめに、報告(1)「令和元年度2学期までの出雲市立小・中学校における問題行動等について」を、児童生徒支援課 児玉課長 に説明願います。

(児玉課長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の報告について、何か質問等はありませんか。

(水委員) 「だんだんプロジェクトの拡大」ということで、来年度は何校になる予定ですか。

(児玉課長) 来年度「チャレンジ校」ということで現在募集をかけているところですが、今、小学校が6校、中学校は1校、自校で取り組みたいということで手をあげていただいているところでございます。

(小豆澤委員) 前回の定例会でも不登校についてレクチャーを受けたところで、「発達障がい」が認知されるようになってきていることはわかりますが、昔と比べて急にその割合が増えたというわけではないと思うんですよね。となると、発達障がいも不登校の原因の一つという可能性はあるんでしょうけども、やはりもう少しそれ以外の要因というものを考えたほうがよいのではないかと私は思います。

その中で、不登校の原因が、子どもたちの人間関係等に起因するものなのか、それとも、教師、大人であったり、学校の規則であったり、そうしたところに起因する「外的要因」によるものなのかというところが気になるところです。

「外的要因」であれば、管理方法の見直しなどで改善できると思うんですけど、子どもたち自身の原因によるものは変えようがないので、子ども同士の人間関係なのか、それとも、教師、または、学校の規則であったり、そうした部分なのかっていうことは、ある程度もう少し調べてみるほうがよいのかなというふうに思います。

また、大人の社会もそうなんですけども、人と違うことが非常に認められにくい、批判を浴びやすい社会になっているということが、大人の中でも子どもの中でも生じている、ということが一番私は心配していますので、そのあたりの視点を持った調査などをしていただき、その結果が知りたいなというところで、お願いをしておきます。

(兒玉課長) まだまだ調査できていない現状にあります。先ほど委員からご指摘のあったことも含めて、今後、どういう調査をしていけるのか検討していきたいと思います。

(小豆澤委員) 私も自分の感覚的に申しあげていて、根拠に基づいて提案しているわけではありません。

しかしながら、例えば、昔は、子どもがみんな学校から脱走しても、そこまで問題にはならなかった。それが、今は、自分の椅子に着席できないことが問題になる時代です。これは、大きな違いだと思うんですよね。やはりそういったところからも、学校という環境での生きにくさ、生き辛さというものがあるのではないかと、また、そのほかにもたくさん子どもがストレスとを感じる要因はあると思うんですよ。

あくまでも自分の感覚で、根拠に基づいているわけではないんですけども、先生や教育委員会や、皆さんの努力によって環境を変えることができる、解決の道が見えてくるということもあると思うので、根拠に基づかない言い方で申し訳ないですけども、できるだけ早くそういった、こちらが変わることで改善できることに対しての努力は早急に行っていただきたいなと思います。

(槇野教育長) ほかにいかがでしょうか。

(金築委員) 小学校の「不登校傾向」の児童の数が、29人から87人にすごく増えているんですけども、内訳がわかりますか。

(兒玉課長) 欠席の理由を「不登校」「経済的理由」「病気」「その他」という4つの項目に分類して集計しておりますが、これまで、「頭痛」「腹痛」といったものは、「病気」にカウントして、「不登校」と数を別にしていました。しかし、学校に行きにくい気持ちが「頭痛」や「腹痛」に表れるということもありますので、それは「不登校」の実数に入れなければならないというような指導もありまして、今年度増加したという背景もあります。それともうひとつが、先ほどありました、特別な支援が必要なお子さんの「障がい」も欠席の理由の一つになっているのではないかとということで、これまでは「その他」にカウントされていましたが、それも「不登校」でカウントしていくといったようなこともありまして、増加しているということはあると思います。

(植田部長) 私の感覚で申しあげるところもありますが、低学年の不登校が増えているのも事実です。以前にはなかった現象ですけども、そうしたところからも考えていけないと思っています。

(渡部課長補佐) 不登校傾向の児童生徒数ですけども、保健室登校などの児童も含めま

すと全体で126人となります。その学年別の数字を申し上げますと、

1年生 18人

2年生 17人

3年生 27人

4年生 19人

5年生 20人

6年生 25人

となります。

(金築委員) どの学年も同じような数字ですね。

(槇野教育長) だんだん低年齢化してきているという傾向がみられますね。

(金築委員) 入学したばかりの1年生に対してもう少しケアができるとよいという気がしますね。

(槇野教育長) そのこのところでの対応の仕方、後々の違いが出てくる可能性はありますね。

(植田部長) 小学校の教員と幼稚園の教員でも、多少、子どもの「見立て」は違うんですよね。その「違い」を少しでもなくしていかないと、そうした子どもたちが増えていますので、そうしたところを含めて「保・幼・小」の連携をしっかりとっていかないとはいけません。

(金築委員) あわせて、不登校の数が増えているのに、教育支援センターの入級児童生徒数が増えていないのは、そういうところがあることをご存じなのか、カウンセリングなどがしっかりされているのかなど、数字だけ見ると少ないような気がしました。

(兒玉課長) 支援センターについては、間違いなくどの学校の先生もご存じでしょうし、ケース会議や保護者面談を通して、こうしたところも勧めていらっしゃるの間違いはないと思います。

(小豆澤委員) 小学生段階においては、保護者が先生方の提案を受け止めることが難しいのではないのでしょうか。中学生になると、進路の問題もありますので、保護者もそういったところを認めなければいけないというところで、中学生の利用が多いのではないのでしょうか。

(槇野教育長) 別室登校の子も結構いますので、数字だけ比較すると、みんなどうしているんだろうかということになりますけど、実際には1日授業を受けている子もいます。ですので、引きこもった状態で、こちらから家庭訪問してもなかなか会えないとかですね、そういう子たちが一番心配ですね。

(槇野教育長) ほかはよろしいでしょうか。

(各教育委員) ありません。

(槇野教育長) 次に、報告(2)「3月定例市議会への提出案件について」の①「補正予算案件」を、教育施設課 園山課長 と、教育部 建部次長 からそれぞれ説明をお願いします。

(園山課長、建部次長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の報告(2)の①について、何か質問等はありませんか。

(小豆澤委員) 中部小学校が外国籍の子どもを受け入れる拠点校となっていますが、西野小学校では、外国籍の子どもに対する集合教育の必要性などは出てこないのでしょうか。

(金築課長) 中部小学校は、外国籍の子どもの受け入れが増えていますが、西野小学校においては、新しく入ってきた児童で日本語指導が必要な児童は今年度はいません。

(小豆澤委員) 企業側へ、日本語指導を重点的に行っている学校の案内は行われているのですか。

(金築課長) お願いは、しています。

(槇野教育長) ほかはよろしいでしょうか。

(各教育委員) ありません。

(槇野教育長) 次に、報告(2)の②「令和2年度当初予算案件」について、各担当課長から説明願います。質問は説明後、一括して行います。建部次長 から説明をお願いします。

(建部次長、金築課長、兒玉課長、園山課長、金森課長、矢田館長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の報告について、何か質問等はありませんか。

(小豆澤委員) 「就学援助事業」について質問です。要保護・準要保護への就学援助事業に加え、「特別支援学級へ就学する児童への就学奨励事業」とあって、要保護・準要保護児童に対して経済的な支援をするということはわかるんですけども、特別支援学級へ就学する児童に対して学用品費や学校給食費が支給されるのはなぜなのでしょう。

(建部次長) 特別支援学級に在籍することで様々な経費がかかるため、保護者に対して援助するもので、従来から行われてきています。所得に応じた補助を行っているところです。なんらかの支援が必要なお子さんということですので、扶養されるに当たってはそうしたことによる経済的負担がでてくるという考え方に基づくものです。

(槇野教育長) ほかはいかがでしょうか。

(錦田委員) 「地域学校協働活動モデル事業」において、中学校区に「地域学校協働活動推進員」を配置されるということですが、どういった方がこの任に当たられるかということは、もう決まっているのでしょうか。

(建部次長) 学校と地域を結ぶ方という想定ですが、モデル地域をどこのブロックにするかということも含めて、これから相談しながら具体的に決定します。学校と地域両方に通じていらっしゃる方ということになりますので、学校やコミセンなどそういったところの方が想定されるかなと思っています。

(錦田委員) わかりました。いずれにしても、良い事業であるなと思いますけども、人材の確保ということが一番なのかなと思いますので、心配をしたところです。

(槇野教育長) ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。不明な点があれば、お問い合わせください。それでは、報告(2)の③「条例案件」「出雲市いじめの防止等に関する条例」について、児童生徒支援課 兒玉課長 から説明をお願いします。

(兒玉課長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の報告(2)の③について、何か質問等はありませんか。

(錦田委員) 市長部局の「出雲市いじめ問題再調査委員会」ですが、こうしたネーミングが一般的なのでしょうか。

(兒玉課長) そうですね。

(槇野教育長) 教育委員会の機関が行った調査結果では不満であるという場合に、市長部局のこの委員会で再調査を行うというもので、「再調査」専門ですね。

(錦田委員) 特別な場合ですよ。

(槇野教育長) そうですね。ほかはいかがでしょうか。続きまして、報告(2)の④「単行議決案件」「備品の取得について(出雲学校給食センター連続式揚物機(ガス式))」を、学校給食課 金森課長 から説明をお願いします。

(金森課長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の報告について、何か質問等はありませんか。

(各教育委員) ありません。

5 その他

(槇野教育長) それでは、「その他」に入ります。教育委員会の後援・共催事業について、教育部 建部次長 に説明をお願いします。

(建部次長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の報告について、質問等はありませんか。

(各教育委員) ありません。

(槇野教育長) その他、委員の皆さま、あるいは事務局の方で、何かございますか。

(植田部長) 新型コロナウイルスの関係ですけれども、市において全庁的に取り組んでいるところです。小中学校におきましても、来週のところで、対策とか、児童生徒が学校を休む場合の対応などについて共通理解をしていただくために、教育長名で保護者に対して文書を出したいと思っております。幼稚園や保育所なども同じような考えで進めていく予定でございますので、一言、ご報告申し上げます。

6 次期教育委員会の開催時期

(槇野教育長) 次期教育委員会の日程ですが、令和2年3月24日(火)の、午後2時から、市民応接室で開催いたします。

閉会

(槇野教育長) 以上をもちまして、令和2年2月出雲市教育委員会定例会を閉会します。

(15:32) 定例教育委員会閉会